

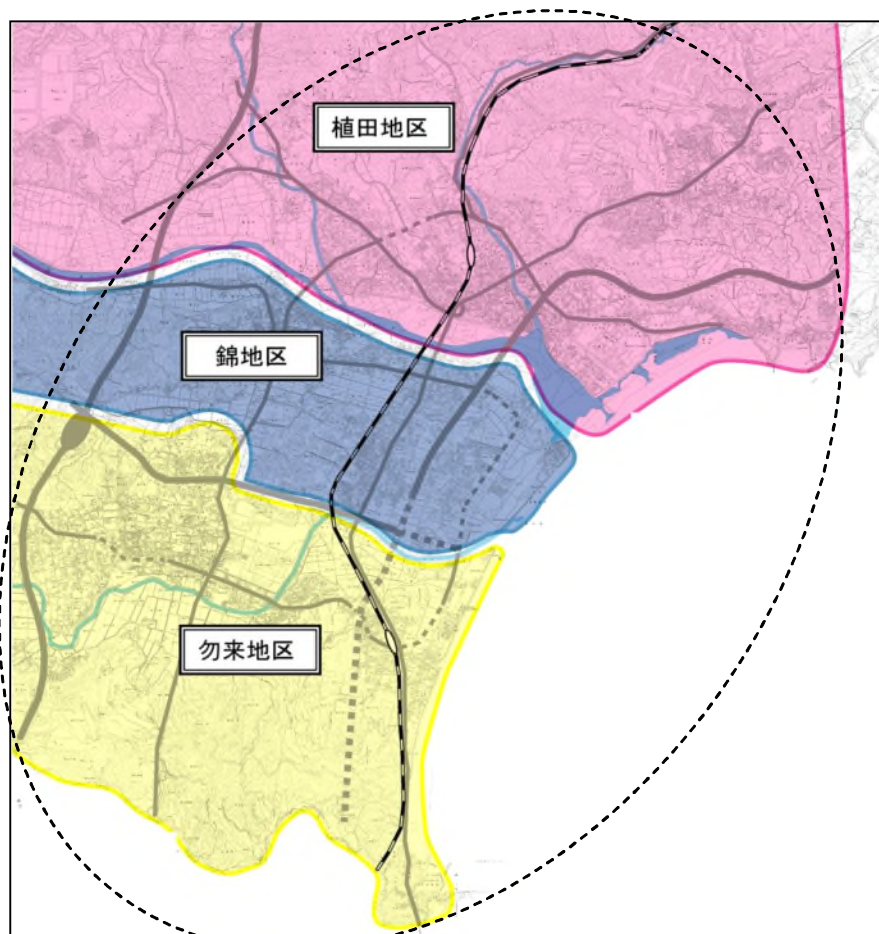
5. 地区別まちづくり計画

5-1 地区別まちづくり計画

本章では、基本方向と将来都市構造、部門別まちづくりの方針に沿ったまちづくりを進めるため、各地区の特性に配慮しながら地区別の具体的な目標を掲げ、まちづくりの方針及び施策の展開方向を示す。

地区を区分するにあたっては、地域の生活拠点を計画単位の核として捉え、地形のまとまり、河川・丘陵地などの地区を分ける要素、町丁界によって区分することとし、まちのエリアを中心にその隣接地を含めた区域を3つの計画単位として次のように設定する。

- 植田地区・・・鮫川を含め鮫川より北の植田駅周辺地区及び周辺市街地
(植田駅周辺、小浜・岩間の海岸付近、金山・中岡の市街地 等)
- 錦地区・・・鮫川より南の勿来支所周辺や工業集積地を含めた市街地
(錦町、勿来支所周辺、工業集積地、南の森スポーツパーク 等)
- 勿来地区・・・勿来駅周辺及び窪田地区などを含んだ市街地
(勿来駅周辺、勿来の関公園、勿来海岸、窪田地区 等)



地区の区分

5-2 植田地区

現状・課題

- ・植田駅周辺は南部地区の中心商業地を形成しているが、空き店舗が年々増加するなど空洞化が進行しているため、商業の活性化はもとより地区の人や情報の交流、コミュニティの活性化を図っていく必要がある。
- ・市街地に近接する形で鮫川や岩間海岸・小浜海岸などの水辺空間があり、これらの資源を有効に活用したまちづくりを進めていくことが重要である。
- ・植田駅を中心としたJR常磐線の東側に広がる市街地では、土地区画整理事業により道路・公園等の都市基盤が計画的に整備されており、良好な住環境が確保されている。
- ・古くから形成された金山等の市街地においては、狭あいな道路や通学路の道路環境の改善や地区住民の憩いの場の創出が課題である。
- ・JR常磐線の東西を連絡する道路の整備・改善が必要である。
- ・植田公民館や勿来勤労青少年ホームなどは、生涯学習やコミュニティ活動の拠点として、一層の有効活用を促進する。

まちづくりの目標

① 活気にあふれ歩いてみたくなる商業地づくり

- ・多様な商業集積を活かし、南部地区の中心商業地として地区内だけでなく地区外からも人を呼び込めるような、活気にあふれる魅力的な商業地の形成を図る。
- ・既存の都市基盤を有効に活用することにより、居住者や来訪者が快適に買い物や散策できる歩行者ネットワークを形成し、歩いてみたくなるまちづくりを進める。
- ・公共交通機関の利便性や都市基盤、商業基盤を活かし、主に歩行者を重視したまちづくり・商業地づくりを展開していく。

② 暮らしやすい住宅地づくり

- ・東田地区や中岡地区など土地区画整理事業により計画的に整備された市街地については、良好な住環境を維持しながら、より住みやすい生活環境づくりに努める。
- ・基盤整備等が遅れている住宅地については、生活道路の改善と併せてコミュニティ活動の活性化や防犯・防災対策を推進し、住みやすい環境づくりを進める。

③ 河川、海岸をはじめとする地域資源を活かした観光・レクリエーションの充実

- ・鮫川の水辺空間とまちなかを連絡する軸を形成しながら、レクリエーションの場として利活用を図り、潤いのあるまちづくりを進める。
- ・小浜、岩間海岸等については海水浴・マリンスポーツの場として活用する。
- ・既存の都市公園や緑地等の維持・充実を図る。
- ・河川や海岸、公園・緑地等の地域資源の有効活用とネットワーク化を図り、観光地としての魅力的なまちの創造を目指す。

④ 自然資源、自然景観を守り、育むまちづくり

- ・都市公園や街路樹、市街地を取り囲む丘陵地や農地等は、すぐれた緑地機能を有していることから積極的な保全と活用を図る。
- ・美しい海浜や河川などの自然景観を守り育み、潤いのあるまちづくりを進める。

まちづくりの方針

① 活気にあふれ歩いてみたくなる商業地づくり

○ 歩いて楽しいみちづくり

- ・ 駅周辺の中心市街地と鮫川河川敷の水辺空間を結び、買い物をはじめ、まちなかを回遊・散策できる歩行者ネットワークの形成を図る。
- ・ ネットワークの中継点として公園や公共施設等を有効に活用するとともに、ポケットパークを整備するなど、買い物・散策の途中で休憩できる空間を確保する。
- ・ 歩道の段差解消、歩車道分離、電線類地中化、交通規制などにより、歩きやすい歩行空間を創出する。

○ 魅力ある商業地形成

- ・ 魅力ある店舗の誘致や統一感を持たせた街並みづくり、雰囲気づくりにより、人の流れと賑わいを創出し、商店街の活性化を図る。
- ・ 夜もにぎやかな活気あふれる商業地を目指す。
- ・ 街路樹や店先プランター等による緑を活かした潤いのある商業空間を形成する。
- ・ 商業地に居住機能を持たせ、調和のとれた市街地の形成と賑わいの創出を図る。

② 暮らしやすい住宅地づくり

○ ゆとりある生活環境の形成

- ・ 道路・公園等の都市基盤を活かしながら、緑化の推進や建築景観に配慮した良好な住環境の維持・形成を図る。
- ・ 道路のバリアフリー化や歩行者ネットワークの形成を図り、安全に歩ける環境づくりを検討する。
- ・ 金山地区の狭あいな道路や危険な通学路については、ソフト的な施策を含め安心して歩ける環境づくりを検討する。

○ 地域コミュニティの充実

- ・ コミュニティ活動の拠点として、公共施設の機能充実や有効活用を図る。
- ・ 地域に密着した活動、住民自らの手によるまちづくり活動を育てながら、地域交流、世代間交流を深めていく。

○ 住み良さを高める地区アクセスの確保

- ・ JR常磐線の東西の連絡性を高め、利便性の高い交通環境を創出する。

施策の展開方向

① 活気にあふれ歩いてみたくなる商業地づくり

- 中心市街地と鮫川河川敷を連絡するシンボル軸の形成
- まちなかの空き地等を活用したポケットパークの整備
- 市民意見を取り入れた公園のリニューアル
- 歩道の段差解消による歩きやすい環境づくり

- 商店の看板や外壁の色彩統一による商業景観の形成
- 空き地や空き店舗を活用したコミュニティ空間づくり
- 地元の小・中学生、高校生と連携したイベントの開催
- 買い物に便利な駐車場の確保

② 暮らしやすい住宅地づくり

- 軒先緑化等の推進
- 統一感のある街並みや景観形成に向けた意識の醸成
- 通過交通の排除や交通規制による歩行空間の確保
- 狭あいな道路の拡幅整備手法の検討

- 公民館や勿来勤労青少年ホーム等の公共施設の機能充実及び有効活用
- コミュニティ活動の支援

- 都市計画道路の整備促進
- 植田駅西側における交通広場機能の検討

③ 河川、海岸をはじめとする地域資源を活かした観光・レクリエーションの充実

○ 水辺空間の利活用によるレクリエーション拠点の形成

- ・ 鮫川河川敷公園と隣接する公共施設（図書館・公民館・後宿公園）の一体的な利用について検討し、まちのシンボルとなる空間を形成する。
- ・ 鮫川河口部は、気軽に釣り等が楽しめる場として活用を図る。
- ・ 岩間海岸におけるサーフィン等のレクリエーション機能の維持・充実や小浜漁港の観光的利用について検討する。
- ・ 山間部とまちなか、海岸を連絡する鮫川を活用し、新たな交流を生み出すなど、地域間の連携を促進する場として活用していく。

○ 公園・緑地の充実

- ・ 金山公園や東田中央公園等の既存公園については、今後とも機能の維持・更新を図りながらその充実に努める。
- ・ 公園・緑地については、住民との協働した維持管理を行うとともに、リニューアルや利活用についても協働して検討する。
- ・ 住宅地にある公園については、子供や高齢者など地区住民が遊び・憩える空間として利活用を図る。

○ 地区固有の資源や歴史・文化資源の活用

- ・ 「鮫」や「安寿と厨子王」といった地域固有の資源を活かして、勿来地区ならではの観光スポット、雰囲気づくりを進める。

④ 自然資源、自然景観を守り、育むまちづくり

○ 緑・水辺空間の保全

- ・ 動植物の生息地や食糧生産の場である丘陵地や農地等については、里山や田園風景といった暮らしに身近な生活空間として保全に努める。
- ・ 河川については、水生動物や水生植物の生息地であることから、自然や生態系の維持に努めるとともに、河川の治水・利水機能を高める。
- ・ まちに潤いや安らぎを与える自然資源を守り、育んでいくため、市民参加による堤防の草刈り、ゴミ拾いなどの河川の維持管理を行う。

○ 自然資源を活かした景観づくり

- ・ 海岸や河川、丘陵地などの優れた自然景観を保全していくとともに、環境学習の場としての活用を検討しながら、市民との協力により、良好な自然環境の維持・創出を図る。

施策の展開方向

③ 河川、海岸をはじめとする地域資源を活かした観光・レクリエーションの充実

- 鮫川河川敷公園の環境整備、利便施設設置の検討
- 鮫川河川敷公園の維持管理体制の充実
- 河川敷空間の多目的な利用
- 鮫川堤防のサイクリングロードや遊歩道としての活用検討
- 岩間海岸への利便施設整備の検討
- 小浜漁港における観光機能の充実

- 公園利用者の意向を踏まえた公園のリニューアルの検討
- 市民と行政の協働による公園の維持管理

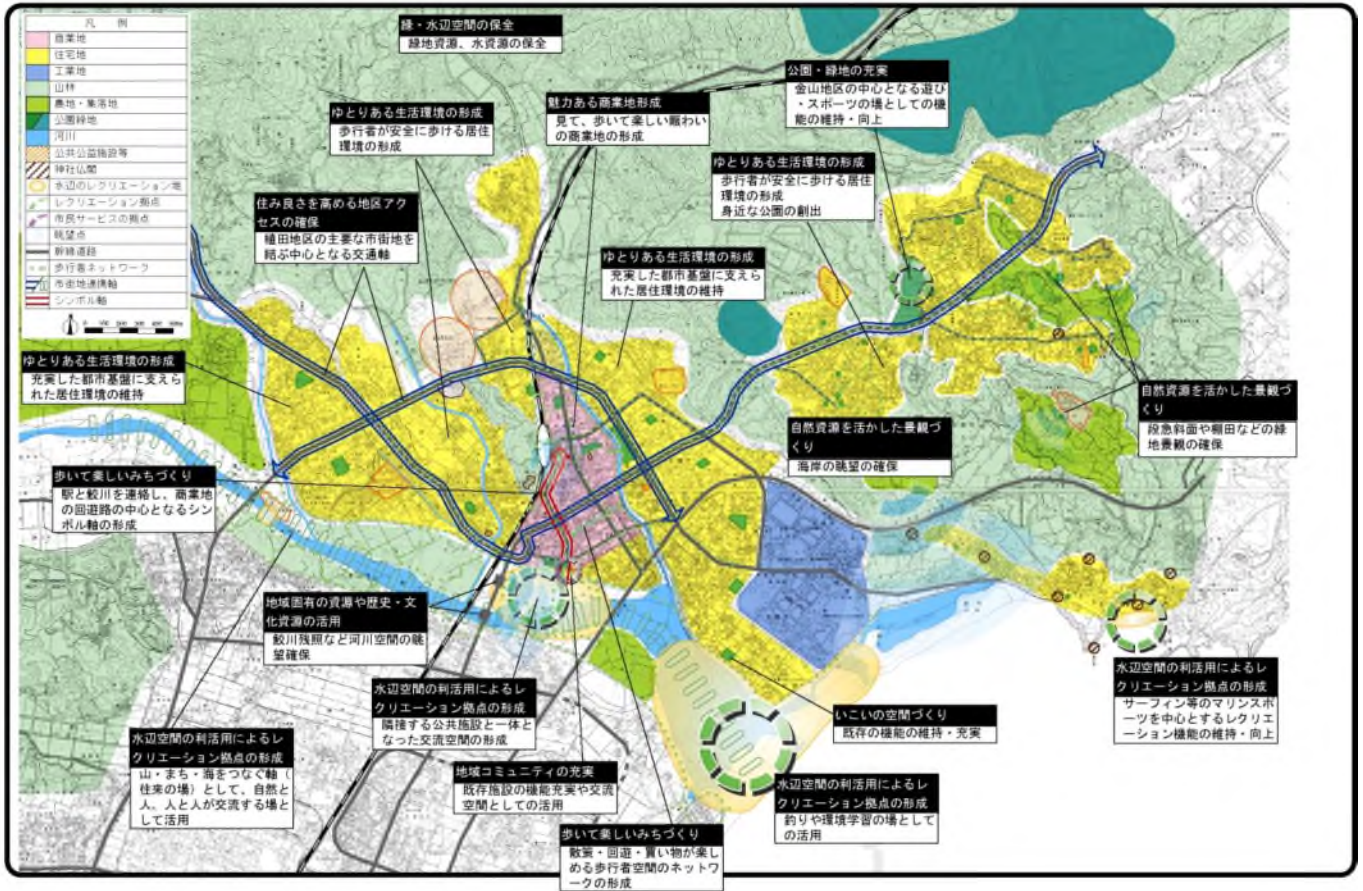
- 鮫川橋のシンボルモチーフとしての活用
- 「安寿と厨子王」のPR強化と案内板の拡充

④ 自然資源、自然景観を守り、育むまちづくり

- 土地利用規制法令等の適用による自然資源の保全
- 公共下水道や合併浄化槽の整備促進
- 自然資源の尊さに関する啓発、教育活動の推進
- 行政と市民の協働による河川等の維持管理活動の推進
- 遊休農地の利活用の検討

- 観光資源等を連絡する散策ルートの設定と眺望点の確保

植田地区まちづくり方針図



架け替えの進む鮫川橋



金山地区の狭あいな道路



岩間海岸の駐車場



(都) 勿来岩間線



鮫川河川敷公園



本町通の商店街

5-3 錦地区

現状・課題

- ・呉羽化学工業（株）をはじめとした大規模な工場が立地しており、工業のまちとして発展してきたという歴史的な背景を持つ。
- ・工業地域に農地等の未利用地が見られることから、土地の有効活用を促進し、地域の産業活性化につなげていくことが望まれる。
- ・土地区画整理事業により都市基盤が整備された市街地が形成されている。
- ・JR常磐線によりまちが分断されているため、東西の連携強化が求められている。
- ・勿来支所をはじめ市民会館・公民館等の公共施設が集中して立地しているが、老朽化への対応や機能の検討が求められている。
- ・（主）日立いわき線沿道に、郊外型商業施設が多く立地しており、街並みや景観などへの配慮が求められている。
- ・地区西部に広がる丘陵地に、いわき南の森スポーツパークが立地している。

まちづくりの目標

① 便利で暮らしやすい住宅市街地づくり

- ・文化・交流・公益施設の立地等を活かし、古くから形成された市街地の環境整備や都市基盤が整備された市街地の良好な住環境の維持など、地区の特性に合わせた住み良い環境づくりを進める。

② 南部地区の活力を支える産業の維持・向上

- ・古くから大規模な工場が立地し、勿来地区の雇用と活力を支える重要な役割を担っているが、今後もこれら機能の維持・向上を目指す。
- ・周辺環境との調和に配慮した環境にやさしい工業地の形成を目指す。

③ 人やモノをつなぐ交流空間づくり

- ・南の森スポーツパークなどのスポーツ・レクリエーション施設や公園・緑地等の維持・充実に努め、人々が気軽に集える交流空間の形成を目指す。
- ・企業と地域住民の交流や商店街と大型店との共存など、地域の交流促進につながる市街地の形成に努める。

④ 地区の財産を活かしたまちづくり

- ・陸前浜街道や安良町地区の街並みなどの歴史的な資源を保全していくとともに、地区の活性化につながる有効な活用手法を検討する。

⑤ 地域をつなぐみちづくり

- ・JR常磐線により分断されている東西の連携強化を図る。

まちづくりの方針

① 便利で暮らしやすい住宅市街地づくり

○ 新たな住宅地づくり

- ・土地区画整理事業の推進により住みよい住宅市街地を形成するとともに、防災機能に配慮した、誰もが安心して暮らせる生活環境の創出を図る。

○ 暮らしやすい居住環境の形成

- ・土地区画整理事業により基盤整備が整った市街地については、良好な住環境の維持・向上を図る。
- ・都市基盤の整備が行われていないその他の市街地については、狭あいな道路の改善手法の検討や公共下水道の整備促進と併せて防災・防犯体制の強化の検討を進め、住環境の改善を図る。
- ・地域に密着したまちづくり活動を住民自らの手により育てながら、地域コミュニティの活性化を図る。

○ 地区の商業地の形成

- ・地区住民の日常生活を支えきた商店街と新しい沿道型商業地との役割分担による互いが共存できる商業地の形成を図る。
- ・駐車場の確保など、車社会に対応した利便性の高い商業空間の形成を図る。

② 南部地区の活力を支える産業の維持・向上

○ 産業の維持・向上

- ・地域の雇用と活力を創出する拠点として、工業生産機能の維持・向上に努める。
- ・工業地域内に残る未利用地の計画的な整備に努め、有効な土地利用の促進を図る。
- ・職住近接型の働きやすい市街地環境を維持する。

○ 企業と市民の交流環境づくり

- ・工場のまちとして発展してきたという歴史的背景を活かし、市民に開かれた工業地としての環境づくりを進める。

施策の展開方向

① 便利で暮らしやすい住宅市街地づくり

- 土地区画整理事業による都市基盤整備の促進
- 公園の整備や生け垣緑化の推進
- 防犯灯や街路灯の設置
- 良好な街並み形成の検討

- 通過交通の排除や交通規制による歩行空間の確保
- 公共下水道整備の推進
- 地区住民が日常的に遊べる公園等の整備
- 緊急医療、夜間診療などに対応した医療施設の充実
- コミュニティ活動に対する支援、活動の場の確保

- 利便性の高いまちなか駐車場整備の検討

② 南部地区の活力を支える産業の維持・向上

- 産業基盤や立地環境の整備・改善による企業誘致の推進

- 工場内敷地及び周辺への緑化の推進
- 工場内の緑地やグラウンド等の企業施設の地域への開放
- 定期的な企業見学等の開催

まちづくりの方針

③ 人やモノをつなぐ交流空間づくり

○ 誰もが集えるレクリエーション空間の創出

- ・南の森スポーツパークについては、地域レベルの競技力の向上を図る拠点施設とするほか、スポーツを通じた交流の場として積極的な活用を促進する。
- ・市街地の既存公園については、地区住民が遊び、憩える空間として、機能の維持・充実に努めるとともに、リニューアルや維持管理についても市民と協働で検討する。

○ コミュニティ拠点づくり

- ・勿来支所、市民会館等については、施設の整備や新たな機能の導入検討も含め、地域の交流やコミュニティの拠点としての機能を高める。

④ 地区の財産を活かしたまちづくり

○ 歴史を感じさせる街並みの保全

- ・安良町地区などの古くから受け継がれてきた街並みを維持し、良好な景観の保全に努める。

○ 錦の財産の有効活用

- ・陸前浜街道については、安全な歩行者空間の確保に配慮しながら、その保全と魅力的な空間の形成を図る。
- ・地区の保存樹木や御宝殿の稚児田楽など、歴史的・文化的な資源を保全し、地区の魅力づくりに活用する。

⑤ 地域をつなぐみちづくり

○ 広域的な連携の強化

- ・南部地区の中心部に位置することから、小名浜、常磐などの市内各地域はもとより、関東圏など広域的な連携強化を図るため、幹線道路網の体系的な整備を進める。

○ 地区内での安全性・アクセス性の向上

- ・海岸や河川などの地域資源を連絡する散策路の整備について検討する。
- ・JR常磐線により分断されている東西地区のアクセス性の向上を図るとともに、中田・糠塚地区における狭あいな道路の拡幅手法についても検討する。

施策の展開方向

③ 人やモノをつなぐ交流空間づくり

- 多目的グラウンドや屋内施設の有効活用
- 南の森スポーツパークへのアクセス道路の整備
- 市民参画による公園等の維持管理体制の確立
- 既存公園のリニューアルの検討

- 支所等の機能の検討

④ 地区の財産を活かしたまちづくり

- 街並みの保全や景観形成に向けたルールづくりの検討

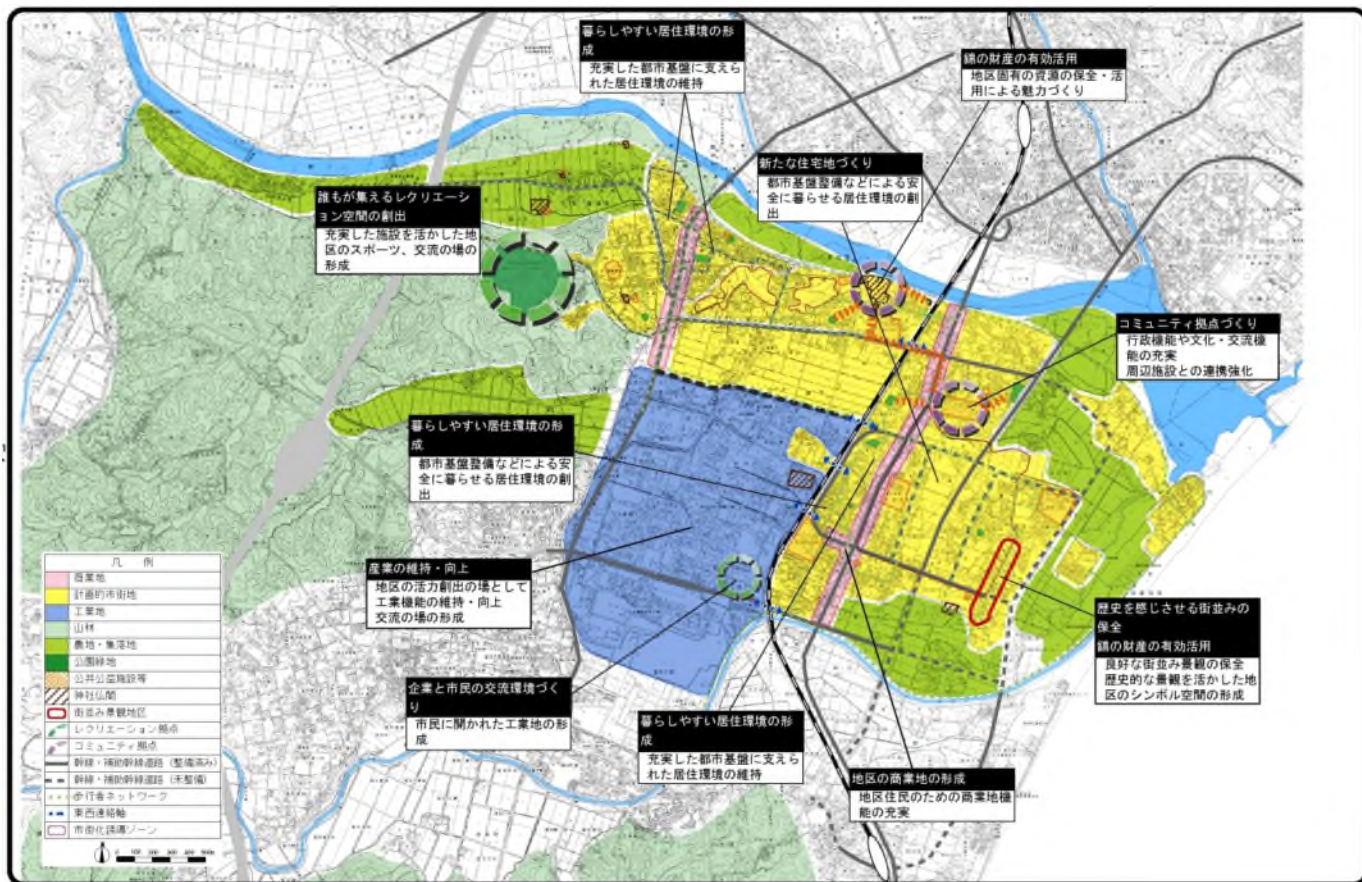
- 地域の宝の発掘、地域資源の再調査
- 伝統芸能など地域文化の保存・継承

⑤ 地域をつなぐみちづくり

- 幹線道路網の整備促進

- 海岸線や河川沿いへの遊歩道やサイクリングロードの整備検討
- 観光資源を回遊する散策ルート of 検討
- 狭あいな道路の拡幅手法の検討
- 交通安全点検等の実施

錦地区まちづくり方針図



勿来錦第一土地区画整理事業地内



工場敷地内に広がる緑地



安良町地区の街並み



(主) 常磐勿来線沿道



熊野神社



勿来支所

5-4 勿来地区

現状・課題

- 勿来地区には奥州三古関の一つである「勿来の関」があり、古くから東北地方の玄関口としての役割を果たしてきた。
- 勿来の関公園や勿来海岸といった自然を活かした優良な観光資源をはじめ、窪田藩の面影や国魂神社などの歴史的資源が多く見られ、豊かな自然と歴史的な風情ある地区である。
- 窪田地区は江戸時代に窪田藩として栄えるなど、歴史的な趣が現在でも残っており、まちなかの細街路や町名などに当時の面影をみることができる。
- 勿来地区の住宅地は道路等の都市基盤が未成熟で、災害時等の安全性が問題となっている。また、地区西部においては住宅と工場の混在箇所も見られる。
- 商業地が幹線道路沿道に配置されており、海岸沿いには民宿等の宿泊施設の集積が見られる。
- 幹線道路に未整備箇所があり、渋滞などの交通問題も一部で発生している。

まちづくりの目標

① 勿来ならではの魅力ある観光づくり

- 地域住民だけでなく、東京・茨城方面等の広域からの観光客が憩える空間づくりを進める。
- 勿来の関は歴史的価値や知名度の高い地域資源であり、今後とも南部地区の観光の拠点としての魅力を高めていく。
- 勿来海水浴場は勿来の関と並ぶ勿来地区を代表する観光資源であり、今後とも観光の拠点として、美しい海浜の保全と有効活用を図る。
- 多様化する海洋レクリエーションに対応した、地域資源の新たな活用方策や仕掛けづくりを進め、新たな観光客の獲得に努める。

② 観光をサポートする商業機能の充実と雰囲気づくり

- 観光客に対するもてなしの心の醸成や商業・サービス機能の充実により、勿来の関や勿来海水浴場等の観光資源の魅力向上を図り、観光地らしい雰囲気づくりを進める。

③ 地域資源を活かした趣ある市街地づくり

- 窪田地区の市街地においては歴史的資源の保存と活用により、その趣を現代に融合させた特色ある市街地の形成に努める。
- 山林、農地、海岸等の豊かな自然に囲まれた特性を活かし、自然と共生する都市景観の創出に努める。
- 市民が安心して暮らせるよう良好な居住環境の形成を図る。

④ 地域をつなぎ、魅力を高めるネットワークづくり

- 勿来の関や勿来海水浴場といった観光資源と、観光をサポートする商業施設、勿来漁港、歴史的な面影が残る窪田地区等の連携を図り、相互の魅力向上に努める。
- 広域観光や地域間交流の連携を支える基盤整備を促進し、渋滞のない円滑な交通環境の確保を図る。

まちづくりの方針

① 勿来ならではの魅力ある観光づくり

○ 古の詩ごころにふれる、詩歌の公園づくり

- ・ 勿来の関公園については勿来文学歴史館との連携を図りつつ、公園の持つ歴史や自然といった機能をより有効に活用する。
- ・ 勿来の関公園周辺の山林は重要な緑地資源、景観資源であるため、公園整備との調和を図りながら保全に努める。
- ・ 公園までのアクセス改善と公園内での安全な歩行空間を確保する。

○ 多様なニーズに対応した海のレクリエーション拠点づくり

- ・ 海水浴場としてのレクリエーション機能の充実に努めるとともに、広くPRに努める。
- ・ 多様なマリンスポーツの振興に併せて、勿来の関、勿来漁港周辺の民宿と連携を図りながら海岸の新たな魅力を創出する。
- ・ 夏期集中型から通年型観光への転換を図るため、多様なレクリエーションを提供できる拠点の形成を図る。

○ 交流と協働による観光づくり

- ・ 高萩市・北茨城市などの周辺地域との連携・協力による観光ルートの整備や観光資源のネットワーク化を図り、観光産業の振興に努める。
- ・ もてなしの心の醸成や観光施設等の維持管理、イベントの企画運営等については、観光ボランティアの育成と活用を図るなど、市民と協働した取り組みを進める。

② 観光をサポートする商業機能の充実と雰囲気づくり

○ 観光地としての賑わいづくり

- ・ 観光地としての風情の醸成、魅力的な宿泊施設や飲食店の誘致など、観光をサポートする機能の充実・強化を図る。

○ 新たな観光商業づくり

- ・ 勿来漁港での良質な水産資源を活かした郷土料理や土産品の開発など、地域に根ざした観光資源の発掘や活用を図り、観光商業の振興に努める。

③ 地域資源を活かした趣ある市街地づくり

○ 懐かしさを感じさせる窪田の街並み再生

- ・ 窪田藩の歴史的な面影を残す街並みや街区構成、町名等の保全を図る。
- ・ 商業集積が見られ人々の往来の多い（主）日立いわき線については、良好な道路環境、沿道空間の創出を図る。

施策の展開方向

① 勿来ならではの魅力ある観光づくり

- ・ 歴史に触れることのできる交流・学習の場の整備
- ・ 歌碑等を活かした歴史を感じられる遊歩道・広場づくり
- ・ 豊かな自然、眺望を活かした自然と触れあえる交流の場の創出
- ・ 桜の名所としての山桜の保全

- ・ マリンスポーツ等に対応した海岸の利活用の検討
- ・ 勿来漁港を拠点とした釣り船での海釣りなどの観光振興
- ・ 宿泊・滞在機能の充実
- ・ 各種観光資源を回遊するネットワークの形成
- ・ 美しい海浜の保全の検討

- ・ 高萩市・北茨城市や隣接地域との連携による広域観光の振興
- ・ 市民との協働による観光施設の維持管理やイベントの企画運営
- ・ 観光ボランティアの育成と活用

② 観光をサポートする商業機能の充実と雰囲気づくり

- ・ 宿泊施設、飲食・歓楽施設、土産販売施設の充実
- ・ 観光地としての魅力を高める景観形成
- ・ 駐車場の整備
- ・ 地場産品、観光資源等のPR

- ・ 水産資源を活用した郷土料理や土産品の開発
- ・ 地場産品の販売所（直売所）や飲食店などの整備

③ 地域資源を活かした趣ある市街地づくり

- ・ 歴史を感じさせる街並みの保全
- ・ 国魂神社、稲荷神社等の有効活用
- ・ 歴史を感じさせる町名等の保存
- ・ 地域固有の歴史や文学等の学習・PR機会の創設
- ・ 歴史的資源や水路等を活用した散策路の検討

まちづくりの方針

③ 地域資源を活かした趣ある市街地づくり

○ 豊かな自然を身近に感じられる良好な居住環境づくり

- ・ 東に海岸が、西に緑豊かな山々が望めるという優れた景観や緑豊かな自然環境の維持・保全に努める。
- ・ 住宅と工場が混在する地区においては住環境や自然環境に配慮し、調和のとれた市街地の形成を図る。
- ・ 狭あいな道路の改善手法の検討や防災・防犯体制の強化により、暮らしやすい住環境の創出に努める。

④ 地域をつなぎ、魅力を高めるネットワークづくり

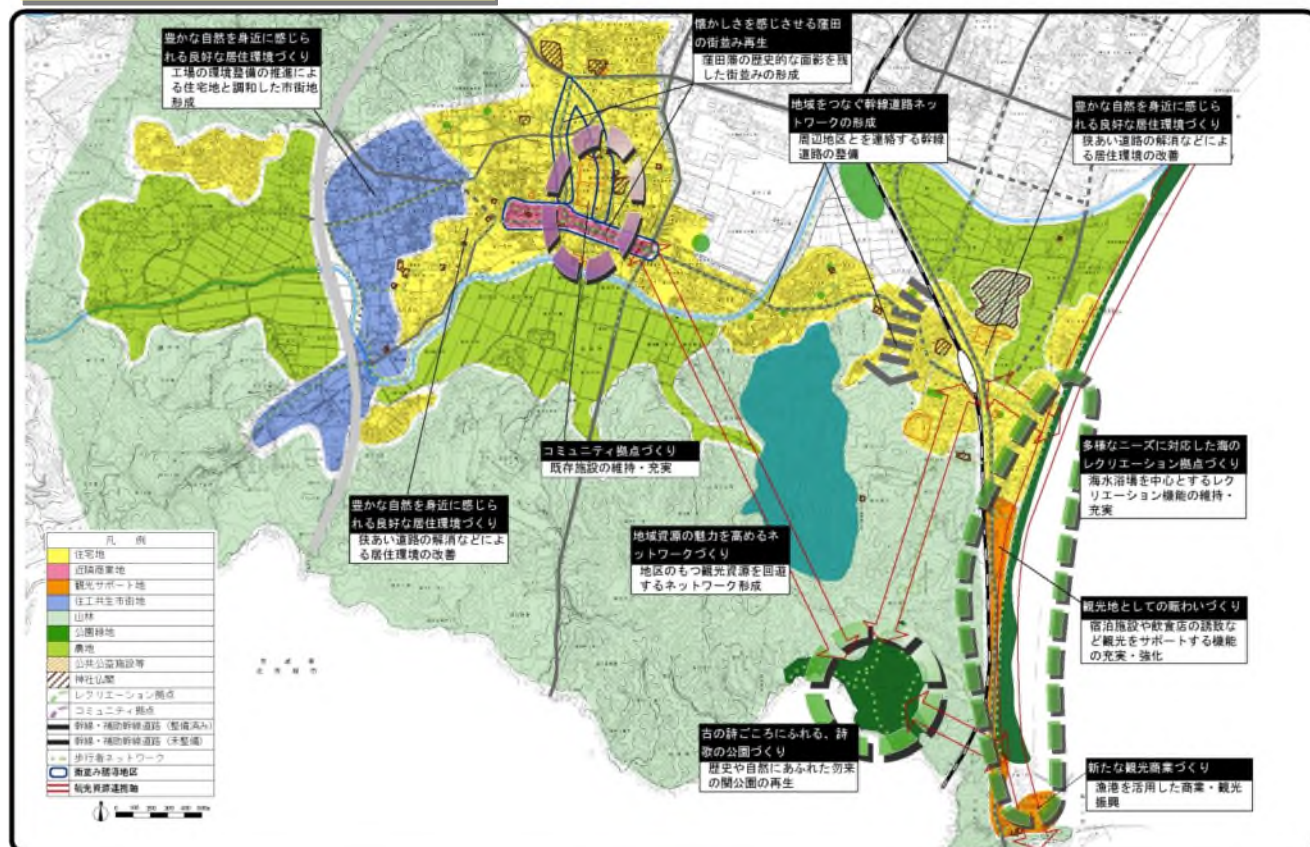
○ 地域資源の魅力をも高めるネットワークづくり

- ・ 地域資源の有効活用と併せて窪田地区や勿来駅、勿来の関、勿来海岸、勿来漁港等を回遊できるルートを検討するなど、通年型観光地としての魅力を高める。
- ・ 勿来駅周辺の交通環境の改善と徒歩でも安心して移動できる歩行空間の確保に努める。

○ 地域をつなぐ幹線道路ネットワークの形成

- ・ 国道6号の狭あい区間解消など茨城方面と連絡する幹線道路の整備を促進し、関東圏との広域的な交流と連携の促進を図る。
- ・ 地区内の幹線道路網の体系的な整備を促進し、観光地や公共施設等へのアクセス性の向上を図るとともに、まちなかへの通過交通の流入を抑制し、安全で快適な交通環境を創出する。

勿来地区まちづくり方針図



施策の展開方向

③ 地域資源を活かした趣ある市街地づくり

- 緑化等による景観形成のためのルールづくり
- 住工混在地区における緑化等の推進
- 生活道路の拡幅整備
- 歩行者と車が共存できる道路のあり方の検討
- 交通安全点検の実施

④ 地域をつなぎ、魅力を高めるネットワークづくり

- 観光資源を連絡する回遊・散策ルートの設定
 - 散策路・サイクリングロードの整備
 - コミュニティバス等の運行
 - 勿来駅周辺における東西連携の強化
-
- 国道6号常磐バイパスの南伸等広域幹線道路の整備促進
 - 地区内補助幹線道路の整備促進
 - 歩道の拡幅など安全で快適な歩行空間の確保



勿来海水浴場



窪田町通



勿来の関



勿来駅



国魂神社



勿来漁港